

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

皆さん、今日一日、長時間にわたって熱心な討議に終始した ALIA 国際会議、まことにご苦勞様でした。

今日の会議、「アジア芸術教育協議体（ALIA）国際会議 2013～芸術教育による平和創造～」の開催と熱心な討議によって、いよいよ、アジアの芸術大学の連合による、世界平和創造への新たな挑戦が動き始めたと言えます。

世界平和のための芸術教育をめざして、アジアの芸術大学のネットワークが、2012 年 10 月に韓国芸術総合学校（韓国・ソウル）の呼びかけで設立された後、今回、国際会議が初めて開かれました。京都造形芸術大学に、アジアの 13 か国と 1 地域の、16 の機関が参加して、この会議が開催されました。また、会議には、学生たちにも参加してもらいました。

開会式の後、基調講演では、根岸吉太郎さんと、Park Jae Eun（パク ゼウン）さんによって、また、提言プレゼンテーション&パネル・ディスカッションが、芸術平和学の教材共同制作に関連した、宮島達男さん、ヤノベケンジさん、Martinus Dwi Marianto（マルティヌス ドウィ マリアント）さん、Choi Junho（チェ ジュンホ）さんによって、ラウンドテーブル・セッションは、Yang Chyi-Wen（ヤン チーウエン）さん、Sonintogos Erdenetsogt（ソニントゴス エルデニツォグト）さんによって、アジアの芸術、芸術教育の国際化について、オープンディスカッションは、アジアの芸術教育発展のための実践的な交流の可能性について進められ、それぞれ稔りある成果を生み出しました。

会議の閉会にあたって、「京都アジェンダ」が参加機関によって調印されました。この調印をもとに、今後さらなる活動が継続され、この国際会議の趣旨が具体化される方向に向かうことが期待されます。

今回のこの国際会議によって培われた相互交流の実績が活かされて、次の国際会議に力強く引き継がれることを期待し、再開を約して、閉会の辞とさせていただきます。最後になりますが、熱心な討議に参加された方々をはじめ、後援していただいた外務省、文化庁、国際交流基金、京都府、京都市、この会議の実現に努力された皆さま方に深く感謝して、閉会を宣言します。

ありがとうございました。